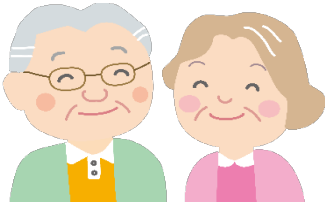


1月

3西病棟（回復期リハビリテーション病棟）



## 患者様に寄り添った看護

卒後2年目 宮腰 莉世

私は看護学校を卒業してから、回復期リハビリテーション病棟に勤務しています。回復期リハビリテーション病棟では、病気やそれに伴う後遺症等を抱えている患者様が、病院から生活の場である地域へ帰るためにリハビリを行うための病棟です。

看護師になることを志し、学生時代から「患者様に寄り添った看護を提供できるようになりたい」と思い、就職後もその考えのもと日々業務に勤めています。

実際に業務を行う中で、「患者様に寄り添った看護」とは何かと何度も考える機会がありました。

この2年間で感じたことは、患者様がもとの生活の場に戻るために、患者様自身の思いはもちろん、ご家族様やその地域の方々の支援がとても重要なものだと感じました。回復期リハビリテーション病棟で勤務する中で、医師や看護師だけでなく、リハビリテーションスタッフや医療ソーシャルワーカー、地域のケアマネージャーなど様々な職種と関わる機会があります。それぞれの職種の方々と協働しながら、患者様とご家族様に寄り添ったサービスを考えていくことが大切だと学びました。看護師はその輪の中で、患者様と他職種をつなぐ役割だと私は感じています。患者様とご家族様の声に寄り添い、よりよい看護が提供できるよう、これからもこの思いを大切にして努めていきたいと思えます。

